

問1 私たちの経済生活において、貨幣は物々交換の不便さを解消し、スムーズな取引を支える重要な役割を担っています。リンゴやペンといった商品を購入する際に、貨幣がその代金として支払われることで、財（モノ）やサービスと引き換えられる働きを何と呼びますか。 （2021年 佐賀公立入試 類似）

1. 価値の尺度 2. 交換手段 3. 価値の保存 4. 支払手段

問2 外国為替市場において、1ドルを交換するために必要な日本円が150円から100円に変化した状況を想定します。このように他国の通貨に対して「円の価値が高い」状態を何と呼び、この時、10万円をアメリカドルに換えた場合に受け取ることができるドルの額はどうなりますか。 （2026年 三重公立入試 類似）

1. 円高と呼び、受け取るドルが多くなる 2. 円安と呼び、受け取るドルが多くなる 3. 円高と呼び、受け取るドルが少なくなる 4. 円安と呼び、受け取るドルが少なくなる

問3 日本銀行が、景気の停滞期（不況期）に市場を流通する通貨の量を増やして景気を刺激しようとする際、民間銀行との間で行う操作について述べたものとして正しいものはどれですか。 （2017年 徳島公立入試 類似）

1. 日本銀行が民間銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」を行い、市場に供給される通貨量を増やす。 2. 日本銀行が民間銀行へ国債などを売却する「売りオペレーション」を行い、市場の通貨量を回収する。 3. 日本銀行が民間銀行に預けさせる準備金の割合を引き上げることによって、銀行の貸し出しを制限する。 4. 日本銀行が政府に対して公共投資の拡大を働きかけ、市場の通貨量を直接的に増加させる。

問4 かつて行われていた「物物交換」と比較したとき、社会に貨幣が普及したことで得られた経済的な利点として、適切な説明はどれですか。 （2023年 富山公立入試 類似）

1. 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。 2. 貨幣自体が食べ物や衣服のように生活に直接役立つため、交換しなくても豊かになれるようになった。 3. すべての商品の価値が貨幣の素材（金属など）の重さだけで決まるようになり、価格変動がなくなった。 4. 貨幣があれば労働をする必要がなくなり、社会全体の生産性が飛躍的に向上した。

問5 銀行などの金融機関が、家計などから預かったお金の対価として預金者に支払うもの、あるいは企業などに資金を貸し出した際の手数料として受け取るものの名称として、最も適切なものはどれですか。 （2024年 静岡公立入試 類似）

1. 利子 2. 配当金 3. 元金 4. 売上金

問6 景気が過熱し、物価が上がり続けるインフレーションの懸念があるとき、日本銀行は景気を落ち着かせるための金融政策を行います。この際、日本銀行が実施する「売りオペレーション」の内容と、それによって期待される市場の変化として正しいものはどれですか。 （2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 日本銀行が民間銀行に国債を売り、市場に出回る通貨量を減らすことで、景気を抑制する。 2. 日本銀行が民間銀行から国債を買い、市場に出回る通貨量を増やすことで、景気を刺激する。 3. 日本銀行が民間銀行に国債を売り、市場に出回る通貨量を増やすことで、消費を活性化させる。 4. 日本銀行が民間銀行から国債を買い、市場に出回る通貨量を減らすことで、物価の下落を防ぐ。

問7 景気が後退している局面において、日本銀行が市場の通貨量を調整して景気の回復を図る「買いオペレーション」の仕組みとして、最も適切な説明はどれですか。 （2021年 福岡県公立入試 類似）

1. 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げます。 2. 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を減らし、金利を上げます。 3. 日本銀行が保有する国債などを市中の金融機関に売却することで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げます。 4. 日本銀行が保有する国債などを市中の金融機関に売却することで、市場に出回る通貨の量を減らし、金利を上げます。

問8 日本銀行の役割に関する記述のうち、「銀行の銀行」としての業務に該当するものはどれですか。他の役割である「政府の銀行」や「発券銀行」と混同しないように選びなさい。 （2020年 香川公立入試 類似）

1. 国民から納められた税金を、国の公金として預かったり管理したりする。 2. 日本で唯一、お札（日本銀行券）を発行し、世の中に流通させる。 3. 民間の金融機関の間で発生した資金の貸し借りを、それぞれの預金口座を通じて決済する。 4. 道路や橋を作るための国の予算が、計画通りに支払われるよう手続きを行う。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 交換手段	貨幣には主に3つの機能がありますが、その中でも最も基本的なものが、モノやサービスと直接やり取りされる「交換手段」としての機能です。物々交換では「自分の欲しいものを持つ相手」かつ「相手が自分の持っているものを欲しがっている」という一致が必要ですが、貨幣が仲立ち（媒介）となることで、誰とでも自由に、効率よく取引を行うことが可能になります。
問2	答え 1 円高と呼び、受け取るドルが多くなる	1ドルを交換するために必要な円が少なくなるということは、相対的に日本円の価値が上がったことを意味するため「円高」といいます。例えば、10万円を元手にドルに換える場合、1ドル150円の時よりも1ドル100円の時のほうが、より多くのドルと交換できる（＝受け取るドルが多くなる）ため、海外旅行に行く際などは有利な状況となります。
問3	答え 1 日本銀行が民間銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」を行い、市場に供給される通貨量を増やす。	景気が悪いとき、中央銀行である日本銀行は、世の中に出回る通貨の量を増やして金利を下げ、企業が資金を借りやすくすることで景気を回復させようとしています。このため、日本銀行は民間銀行が持っている国債や手形などを買い取り、その代金として市場に現金を供給します。この仕組みを「買いオペレーション」と呼びます。
問4	答え 1 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。	物物交換では「自分が持っているもの」と「相手が欲しがっているもの」が完全に一致しなければ取引が成立しませんでした。しかし、貨幣が交換手段として機能することで、いったん商品を貨幣に換え、その貨幣を用いて別の場所や時間で自分が必要なものを手に入れることができるようになりました。このように、貨幣は交換の不一致を解消し、取引を円滑にする背景を持っています。
問5	答え 1 利子	銀行は家計から預金という形でお金を集め、それを企業や個人に融資（貸し出し）することで社会の経済活動を支えています。この資金の貸し借りに際して発生する対価を利子（または利息）と呼びます。配当金は株式を保有している企業から利益の分配として受け取るものであり、元金は貸し借りしたお金そのものの額を指します。
問6	答え 1 日本銀行が民間銀行に国債を売り、市場に出回る通貨量を減らすことで、景気を抑制する。	好景気でインフレーションが懸念される場合、日本銀行は保有する国債を民間銀行に売却します。これを売りオペレーションと呼びます。民間銀行が国債を購入する代金として日本銀行にお金を支払うため、市場に出回る通貨量が減少し、結果として企業の投資や個人の消費が抑えられ、物価の上昇が抑制されます。
問7	答え 1 日本銀行が市中の金融機関から国債などを買い入れることで、市場に出回る通貨の量を増やし、金利を下げる。	不景気の際、日本銀行は世の中のお金の循環を促すために、民間銀行が保有する国債を買い取ります。これにより、民間銀行が自由に動かせる資金（通貨供給量）が増加します。市場にお金が余る状態になると、お金を借りる際の価格である「金利（利子）」が低下し、企業や個人がお金を借りやすい環境が整えられます。
問8	答え 3 民間の金融機関の間で発生した資金の貸し借りを、それぞれの預金口座を通じて決済する。	「政府の銀行」は国（政府）の資金（税金など）を扱う役割、「発券銀行」は紙幣を発行する役割です。「銀行の銀行」は、民間の銀行が日本銀行に持っている口座を利用して、銀行間の膨大な取引の決済を行う業務などを指します。これにより、私たちの振り込みなどの仕組みが安全に保たれています。